

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090201433		
法人名	ユミテック株式会社		
事業所名	グループホーム キートス南八幡		
所在地	高崎市山名町802-1		
自己評価作成日	令和 8年 3月 3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和8年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設が「共同生活の場」であることを根底に置いたケアを常に目指している。その為にも利用者各々のパーソナリティや残存能力の把握に努め、その時々無理なく行える生活上の役割を担っていただけるよう留意している。また、生活のリズムは一人一人が異なることを念頭に、定時のケアではなく、各人のリズムを把握したうえでケアとなるよう心掛けている。ご家族とのつながりが絶たれることのないよう、面会の促しやご本人の近況報告などもできるだけこまめに行うようにしている。「親しき仲にも礼儀あり」の言葉のように、時には家族のような存在と感じていただくことは必要だが、私達職員は常に利用者様にサービスを提供する立場であることを忘れぬよう接遇には気を付けている。

事業所は、利用者一人ひとりの生活史などの背景にある、個人の価値観などを理解したうえで、ホームを支援を受ける施設と捉えるのではなく生活の場であることを念頭に、利用者の持てる力を活かしながら、食器洗いや洗濯物たたみ、自動販売機での飲料の購入などできることをして楽しんで過ごしてもらえよう取り組んでいる。また、身体的・機能的変化を注視しながら、例えば、排泄支援においては自立を意識してできることはできるだけ本人にさせていただき、本人の気持ちを尊重した支援に努めている。周囲の環境を活かし、共用スペースにはソファを置き窓越しに景観を眺めたり、ウッドデッキで外気浴をしたり、閉塞感ない暮らしとなるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時における当法人、事業所の理念説明、また、通年での全体会議等における各個別ケアと理念の関連性の紐づけ。これらを通じて全職員が法人理念を業務の根底に置けるよう努めている。また、その上で施設理念も実践していけるよう努めている。	法人理念を基本にしたグループホームの理念を掲げ、理念の一つである地域との交流については、散歩時に行き交う方との挨拶を通して、生活のなかで触れ合う機会を大切に行われるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型の施設として、まだまだそのあるべき役割、存在に至っているとは考えていない。運営推進会議での地域代表者との積極的な情報交換や地域にて催される福祉施設の集い等には参加するようにしているが、3年目の現在もこの部分については模索が続いている。	地域との付き合いについて、散歩時に挨拶を交わしたり、お店に買い物へ行ったりの関わり他、近隣の法人が運営する施設の催しに時々参加しているが、地域生活の継続にむけた支援について模索している。	利用者が、事業所が、より一層地域と関わりが持てるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前項目にて触れた地域にて開催される福祉施設の集いの場において、参加されている地域住民の方々向けの実践経験談などをお伝えすることは行っているが、積極的な情報発信とは言えない。前項目に続き、今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月毎に開催している同会議においては、その間のイベント内容、利用者様の様子、発生したアクシデント事案、入退所、職員の人事等の報告を行っている。また、参加いただいた関係者との会話を通じて有益な情報交換を行わせていただいている。	会議では資料を基に利用者の様子や活動状況、ヒヤリハット事例などの報告を行っている。会議メンバーからの質疑もあり、そのなかで台風時の地域住民への避難場所提供があり、受け入れ可能なことを伝えるなど、参加者との意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務における不明な点等は常に市担当者に助言を求めるようにしている。協力関係というよりは依存関係に近い状態であるが、市からの調査依頼などについては可能な限り協力を行っている。	運営推進会議への参加の他、日常的に必要な報告を行い、わからないことなど迷うときには必要な情報を得られるよう相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心とし、内部研修も行う中で、身体拘束に関する知識の習熟に努めている。個別ケアを深めることによる、身体拘束とは無縁の施設を常に念頭に置いている。	身体拘束をしないことを前提に、身体拘束をしない理解の習得とともに、スピーチロックについての理解をもとに、個別ケアの提供を行っている。身体拘束適正化委員会での内部研修を開催している。また、月1回、法人が運営する4施設の合同研修会も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会を中心とし、内部研修も行う中で、高齢者虐待に関する知識の習熟に努めている。職員間の情報交換の中からも虐待に通ずる予兆を見逃さぬよう日頃より留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人開催の研修にて基本的な事項については学ぶ機会を設け、意識の啓発を図っている。現状はこれらの事業、制度の活用可能性ある方はおられないが、知識、情報の周知は事前に図るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どのような場面であっても必要に応じた利用者、その家族への丁寧な説明は常に心掛けている。個別での口頭説明、文書による案内説明にて疑義が生じぬよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	将来的にはいわゆる「家族会」を設け、定期的な集いの中で、施設運営に関するご意見をいただくといった形を作れたらと考えているが、現状はご家族面会時での会話などからその思いをくみ取り運営に反映させる形となっている。	管理者は、利用者支援には家族の考え方を踏まえることが重要にあると考え、面会時に家族の意見を聞くように努めている。将来的には、家族会が設立でき、定期的な集いから意見の反映に繋げていきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や各ミーティング時において、都度意見聴取の場面は設けている。今後は定期的な個別面談の仕組みを確立し、その中で各人の考えや意見を聴取したいと考えている。	日々の申し送りや、ミーティング時に希望や考えを発言する機会があり、運営につなげている。また、社長と年1回各職員との面談が計画されている。管理者は、さらに面談を活かして職員を育てる機会につなげることも視野に入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を通じた目標設定と進捗管理、これに応じた実績の評価という仕組みは確立できていない状況。職員個々が仕事に対するモチベーションが上がる環境作りは今後必要だと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、資格取得は奨励しており、必要に応じた助成も行っている。法人全体での研修会も月に一度開催する中で個人の知識、技量のスキルアップに寄与している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者の集いへ参加する中で、横のつながりによる情報交換を行う場面はある。また、他施設との見学・勉強会の機会を設けることで切磋琢磨する機会も設けるようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望はもとより、ご本人の意向をくみ取りサービスがスタートできるよう心掛けている。また、入所後まずはご本人との信頼関係を形成することを優先するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたってのご家族様の不安は多岐にわたることを前提とし、一つ一つ丁寧に向き合うことに努めている。他方で、応えることのできない要望については曖昧とはせず、明確に返答することも心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「小規模多機能施設」との併設という当施設の特徴を活かし、「その時」必要としている支援を小多機利用も含め効果的に実践できる方法を複数提案するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共同生活の場」であることから、利用者様にできることは行っていた中で、結果として職員が助けられている事柄もあり、その意味では職員とも共同生活を送っていると言える関係性は現状として築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人に関わることを全て施設側で対応してしまうのではなく、内容により、ご家族の協力を得て対応していくことで、本人と家族とのつながりが途絶えることの無いよう、また、家族も本人に対する支援を行っているという自覚が持てるよう留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の心情を推し量る中で、時には自宅など心に残っている場所にお連れすることや親戚や知人の面会は快く受け入れるよう努めている。	面会を快く受け入れたり、帰宅願望の発言のある利用者には、自宅に連れて行ったり、関わりが途切れないよう気持ちに応える取り組みをしている。また、人や場所だけにこだわらず、従来からの生活習慣なども視野に入れた継続も考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者のパーソナリティを把握したうえで、利用者同士の関係性に十分注意しながらホールでの座席位置等に配慮をしている。また無理のない範囲で役割を担っていただく中で、他者との関りが生まれるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当該項目については、そのゆとりが中々生み出せず、退所後にご様子を伺うようなアクションは取れていないので、今後の課題としたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの発信があればその実現を、また、言葉を発信しない方については月に一度開催しているカンファレンス、日々の申し送り、様子観察、ご家族との何気ない会話を通して、本人本位の環境となるよう努めている。	生活歴、本人からの言葉やしぐさ・表情から思いを汲み取り、支援に反映させるようにしている。そうしたなか、食事や味付けにこだわる利用者に、一緒に買い物に行き食品選びをした事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとに、以前の暮らしが継続できるよう努めている。また、個別のケアがより充実するよう可能な範囲での情報取得に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間での情報共有、朝、夕の申し送り等々により、日々変動する利用者の心情や体調、現存能力の把握に努め、時々に沿った個別の対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族から発信された要望、言葉にならぬ想いを推し量った上でケア計画を立案している。ケアカンファレンスにおいて、ケアの振り返りを行っている。	介護計画に基づき、ケア内容を統一するようにしている。ケアカンファレンスでは、ケアの振り返りをする共に、新たな内容の検討をすすめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者に対する日々の気付きについては、申し送り等でスタッフからの発信がされているが、様子観察を記録として残す作業は不十分な面があると考えているので、今後ここは改善していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム施設としての役割を逸脱しない範囲で可能であることは柔軟に対応しているが、人員面などから要望把握後すぐに実施できない事柄もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議内で地域代表の方々から情報を得よう努め、地域密着型施設としてその資源の活用が図れるよう常に意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している協力医による月二回の往診により利用者個々の状態は施設と医療機関とで共有できており、ご家族もそのことを了解されている。常に健康面での懸念事項は本人またはスタッフから医師に伝え、その対処法等のアドバイスを受けることができています。	協力医療機関に、すべての利用者が月2回の訪問診療を行うことで進めている。診察の際には職員が日々の健康状態を伝達することで、内服支援に繋いでいる。また、週1回訪問看護師によるサポート体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約をしている訪問看護による週一回の面談により健康状態についての施設と看護職との連携は取れている。急変時も24時間対応により、適切な支援を行える体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関での入退院については進捗状況を常に共有することが可能である。他医療機関のケースについては、こちらからこまめに連絡を取り、進捗状況を把握するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開所以来、二件の看取りを経験したが、家族によりお考えは異なり、基本方針は提示したうえで、ご家族様の意向に可能な限り沿えるよう対応することが誠意ある支援だと考えている。また、連携医療機関との情報共有も大きなウエイトを占めるものだとして認識している。	事業所は重度化や希望あれば終末期ケアも提供する考えがあり、過去に2件ほど経験がある。入居時にそうした内容を伝え、意思を確認している。その後、利用者の状態変化に伴い、重ねて医師の指示を受けながら意向を確認している。	重度化や終末期に向けた方針について、家族と共有できる仕組みづくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会での基本知識習得に努めるとともに、実際の事例を振り返る作業において、次回にはより良い対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP研修や消防署員立ち合いでの総合的な避難訓練等を通じて災害時にスムーズな対応ができるよう備えている。また、地域の区長とのコミュニケーションにおいても災害時対応については話題としている。	消防署立ち合いのもと、避難訓練を行っている。自然停電の経験から、停電時のトイレなどの不都合を体験し、具体的な対策を講じるきっかけとしている。地域住民の避難場所としても対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の大先輩」に対する姿勢を基本とし、接遇には常に注意を払っている。家族のように接する場面も必要ではあるが、常にサービスの対象者であることは忘れぬよう折に触れ注意喚起を行っている。	利用者一人ひとりを「人生の先輩」とであると認識して、尊敬の念をもった接遇、特に言葉かけには注意している。排泄への声掛けなどは、自尊心を損ねないよう、小声でさりげなく行うなど呼びかけを統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは「～どちらにしますか」「どのようにしますか」というような、ご本人による選択、意向が反映された日常、ケアとなるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一斉のトイレ誘導、離床、帰床ではなく、個々のペース、その日の様子に応じ、個を尊重した支援、介助となるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、鏡前で身だしなみの確認や整髪支援などを行うようにしている。また、月に一度の訪問理容にて本人の希望に沿った髪型、カラーリングをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供食だけでは物足りない方については、家族持参品、あるいはスーパーでの買い出しにより、より食事を楽しんでいただけるよう心掛けています。また、食前食後の準備片付けは役割分担にて利用者も参加されている。	業者と提携し1週間ごとに献立が届き、ご飯やお粥はホームで準備している。利用者が生活の場として食事の過程で関われることを主眼におき、片付けや声だしたりしている。自分の箸で食事をする利用者もあり、楽しめるよう場面づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の希望、医療スタッフからの助言等々を考慮の上、個々に応じた摂取量を提供している。提供食のみでは不安ある方については栄養補助食品も活用し健康面のフォローを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ホール洗面台にて順番に口腔ケアを行っている。自立の方、見守りの方、半介助が必要な方、各々に応じた支援にて口腔内の		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を活用し、各自の排泄パターン毎に声掛けトイレ誘導を行っている。半介助程度で立位保持できる方はトイレ排泄を可能な限り継続していただくよう努めている。排泄行動における過度な介入は避けることを心掛けている。	排泄記録表を活用し排泄パターンを把握して、立位保持ができる利用者には声掛けをして、トイレへ誘導している。トイレでの排泄を目指し、なにができないのかななどを把握し必要な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、訪問看護師との連携及び平素の飲食物の工夫等により便秘の予防に努めている。また、必要な方については、排泄記録表を活用した排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	単なる清潔保持のための入浴ではなく、気分転換やリラックスできる場としての入浴を提供できるよう、入浴剤の使用や浴室で音楽を流すなどの環境作りに努めている。また、職員都合での入浴日変更、時間帯変更はしないことをスタッフ共有している。	檜の一般浴と機械浴の2ヶ所の浴室、脱衣所は、移動が楽なように共に広いスペースを確保している。週2回の入浴を予定し、気の合う利用者同士で湯船につかったり、音楽を流したりなどの取り組みがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	開所時より入所されている方などは3年経過する中で状態も変化してきており、日中常にホールで過ごすことは体力的に難しくなっている。状態の変化を常に意識し、安心、安楽な日々を過ごせるよう個々の生活リズムに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報についてはスタッフが常に確認できる状態となっている。各人の服薬時には必ずスタッフ間での声を出してのダブルチェックを徹底している。頓服については連携医療スタッフの助言を得る中で服用支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を生かした無理のない範囲での役割分担により、この場へのアイデンティティを強めていただくことや、レクリエーションを活用した気分転換支援などに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ人員数により希望時に即応できないことも少なくないが、可能な範囲で買い物や散歩、施設テラスの活用により生活が常に施設内だけとならぬよう努めている。また、ご家族の協力も得ながら外出の機会が増えるように努めている。	計画的ではないが可能であれば、近くに古墳があり開けたなかでの散歩や、買い物の支援を行っている。また、テラスに出て外気浴を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のリスクもあり、本人管理にて現金を持っている方は2名にとどまるが、施設立替にて何か購入希望があれば即応できるようにしている。施設内の自販機を利用される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の携帯電話を持たれている方が3名。以外の方についても、希望がある時には事務所にてご家族と電話連絡をしていただいている。また、ご家族と手紙のやり取りをされている方が一名いるので、必要な支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールには時期に応じた飾りつけを行ったり、時期に応じた小物をレク時に作成し、それを居室に置いていただく等している。また、環境については、常に利用者の言動に注意し、居心地の良いものとなるよう留意している。	食堂ホールは温度調節などの環境設定とともに、広い空間となっており、突き当りの大きな窓からは外の景色が一望に眺め解放感がある。ソファを配置し、掲示物や絵などがあり、くつろげるよう居場所づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールでの座席は利用者同士の相性を考慮したものとしているが、これにこだわることなく、時々に応じて自由な場所ですごしていただくこともある。また、北側窓付近にソファを設置しており、横になり体を休めたり、二人で腰かけ談笑の場としたり、と自由に使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が既に一年以上当施設で暮らされている中ではあるが、自宅で使用していた家具などを持参されている方はごく招集	居室の掃除やシーツ交換は、基本職員が行うが、声をかけて一緒にしていただける機会を作っている。衣類は四季に応じて家族の協力を得て持参していただき、その他、テレビや好きな本も置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわかるよう表札ネームプレートを出入口に貼付している。また、それだけでは不安な方については、より判別しやすい工夫を行っている。また、設置してあるペダル漕ぎ器具を活用し下肢筋力リハに励む方もいる。		